

鶴岡北高新聞部メンバー



ゆめ 部長
 さとみ キティちゃんを愛するしっかり者
 ほのか 体力が課題の勧誘リーダー
 ななみ 頼れるみんなのお姉さん
 まなつ 文芸部にも籍を置く芸達者
 さき 推理小説にめざめたおしゃべり好き

Cradle 高校生編集部が行く 新シリーズ

スゴハイ vol.1
 SUGOI highschool students in Shonai

鶴岡北高新聞部

県高等学校新聞コンクール、10年連続最優秀賞！
 第39回全国高等学校総合文化祭、文化連盟賞！
 鶴岡北高等学校新聞部の“スゴい”に迫ります。

Supported by 庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁

Cradleに高校生編集部員誕生!?

鶴岡北高新聞部とのタッグで
 庄内のスゴい高校生を紹介

右から齋藤ほのかさん(2年)、部長の丸山七海さん(3年)、五十嵐聡美さん(2年)、同部真夏さん(2年)、奥山ゆめさん(2年)、齋藤沙紀さん(2年)。

1日、株式会社...
 地域デザイン(鶴岡市山王町)は、出羽庄内地域文化情報誌「クレードル」の新企画「スゴハイ」について新たな情報を解禁した。本企画は、庄内で頑張る高校生、ユニークな取り組みをしている高校生を「スゴい高校生」として紹介するシリーズもの。他ページ同様、企画制作は社内編集部で行うと見られていたが、鶴岡北高新聞部を中心とした高校生編集チームで制作にあたる方針が明らかに。今号は、編後、庄内全域から希望者を募り編集部を編成する予定だという。今号は、編集チームの紹介もかねて鶴岡北高新聞部の「スゴい」を紹介していく。



「合格おめでとうございます!」



アンケート配布と撮影の作戦会議中



歓喜の瞬間を狙って...

「軽減税率導入私達にも影響は」
 「駅前活性化の最初の一步に」
 「座談会 貧困と国際協力」
 「ある日のニュース番組のトピックスです」と言われたら、大半の人は信じてしまうのではないのでしょうか。実は、これらはすべて『鶴岡北高新聞』の記事の見出しです。
 1回目の「スゴハイ」は、政治や世界情勢までも独自の視点で切り取り発信する、鶴岡北高等学校新聞部の皆さんです。

聞は、入学式に合わせて発行するものです。年に3本発行するページ数の多い号なので、なかなかの作業量です。最初の編集会議がセンター試験直後だったので、約2カ月半かけて制作していることになりましたね。そう教えてくれたのは唯一の3年生、部長の丸山七海さん。「新聞は、基本的に学校行事に合わせて発行するので、大きな行事のない2月は例年まとまった時間が確保できます。今年も、4月に向けて企画を出し合いじっくりと内容をつめることができました。毎年恒例の新生意識調査のためのアンケート作成も、この時期に行う大事な作業ですね。3月は取材などで動き回る日々ですが、やっぱり17日の合格発表が最大のイベントです。1面を飾る新入生の笑顔を撮れるかの勝負の日ですからね。」

学校行事を追う、
 高校生記者たちの日常

活動場所をのぞいてみると、みんな忙しそうに手を動かしています。それもそのはず、私たちが訪れたのは、発行を控えた新聞の締め切り前日だったので、「こんにちは!」少し遠慮がちにドアを開けると、元気なあいさつが迎えてくれました。
 現在部員は6名。平日16時から17時半の活動をベースに、週末などに突発的な取材もこなしながら月1本ほどのペースで新聞を発行しているといえます。「今制作している260号の新

大人顔負けの
 ジャーナリズムの秘密は?

学校行事の開催に合わせて発行される『鶴岡北高新聞』、話題の範囲は学校内にとどまりません。地方行政や国政、国際的な時事

報道
 鶴岡北高

次号へ ① 意気込み



みんなも頼もしい!

編集部員募集!

鶴岡北高新聞部と一緒に、「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生を募集します。「やってみてほしい!」という強い気持ちがあれば、特別なスキルは必要ありません。

特ダネ大募集!

「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」など、自薦他薦問わず、スゴい高校生の情報を募集します。「スゴハイ」編集部が取材に行っちゃいます。

ご応募・お問い合わせ先
Cradle事務局
info@cradle-ds.jp

新聞部顧問
阿部 由美子先生



「いい新聞をつくるためには“足で書く”ことが大切です。活動を通して、何をすべきかを自ら考え動く力を身につけてほしいと思っています」。



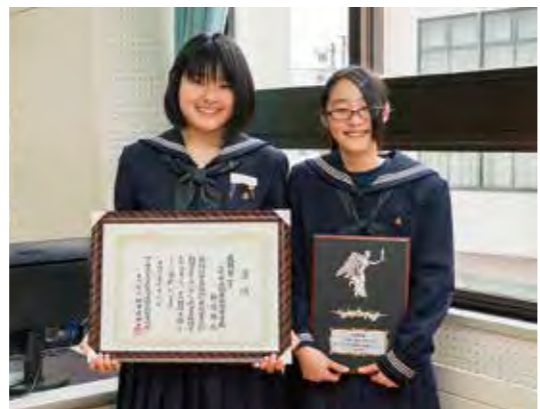
わたしたちが取材に行きます

えと言います。そのうちの1人、阿部真夏さんが担当した消費税の軽減税率の記事中にある「選挙権の年齢引き下げとともに、もっと自分たち高校生も政治に目を向けるべきだ」という提言も、丸山さんの習慣がプラスに影響した結果だといえるでしょう。

書きたい新生、集合〜!

鶴岡北高新聞部には、とても大きな悩みがあります。慢性的な部員不足です。「勧誘には、毎年本当に苦労してきました」と

言う丸山さん。しかし、その表情に暗さはありません。「でも今年は、いけるかもしれません」と視線を向けた先には、2年生の齋藤ほのかさん。「5人いる2年生のうち3人は、実は彼女が連れて来てくれたんです。みんなの視線が集まり、少し照れくさそうに齋藤さんは言う。「頼りになる七海さんも引退が近いので、この春はまず勧誘を頑張って部員を増やしていきたいです。『鶴北高新聞』はもちろん、『スゴハイ』でも、みんなに興味を持って読んでもらえるものを書いていきたいです」。



県の高等学校新聞コンクールでは、10年連続で最優秀賞を受賞



新聞ができるまで

